



# 未来ファンド おうみ おっみ

おたがいさまがつながる社会をめざす  
にゅーす

# News

Mirai Fund Ohmi News Letter Vol.5

2012.12 冬号



つながる活動

Photo



NPO 法人

かじやの里

NPO 法人かじやの里は、東近江市の佐々木源氏の刀鍛冶屋の村にあります。未来ファンドおうみ「びわこ市民活動応援基金」の助成を受け、「かじや村民大学」を始めました。今年は、「寄せ植え教室」、「パン・お菓子教室」、「木工教室」を開講しています。目的は、健康を最大の価値とする「げんき・いきいきかじやの里」の実現です。地元民と地域活動体験学習でつながりができた滋賀県レイカディア大学生が、健康長寿に効果のある「運動・食事・いきがい」を意識した教室をボランティア精神で運営していくことを理念としています。

※レイカディア大学は2年間の学習成果をそれぞれの地域での活動等に活かせるようシニアが学ぶ場です。

## Data

- 団体名：NPO 法人かじやの里
- 連絡先：滋賀県東近江市佐生町323  
TEL / FAX：050-5802-9893  
E-mail：eo1638731@e-omi.ne.jp



# 話題

## 市民ファンドの時代

### つながる社会

Tsunagaru Syakai

最近、全国各地で「市民ファンド」についての議論が活発になってきました。地域課題を市民自らが解決をしていく流れは、98年の特定非営利活動促進法以降、加速度的に展開されてきました。しかし、それらの活動基盤は脆弱なものです。公益は行政が提供するもので、市民が行政に協力することが協働であると、まだまだ時代錯誤な感覚から脱しきれない役人。同時に、行政を叩いておけば問題解決が実現できているかのよ

うなマスコミや行政依存体質から脱しきれない市民。大きく社会が変化している中での過渡期的様相が表出しているように思います。

いま、まさに私たちは大きなビジョンを共有し、社会づくりをしていく必要に迫られています。世界でも経験した事のない極度の少子高齢化社会が到来しつつあります。それを悲観的に捉えるだけでなく、社会

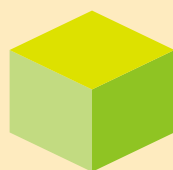
のあり方を問い直していくチャンスと捉えていくべきです。それは、市民が排除される事なく、権利として公を担い、支え合う社会を実現していくことだと思います。

そういった意味でも、公益法人改革における公益認定制度や特定非営利活動法人の認定NPO法人制度は、まさしく民による公益の支え合いを社会的に担保する制度として定着をさせなければいけません。公益法人とその他の非営利法人を区別する必要はもうありません。

冒頭に述べた「市民ファン



▲京都地域創造基金のホームページでは、市民活動団体のプロジェクトがわかりやすく紹介されています。



### ファンドレイジングの小箱

A Small Box of FUNDRAISING

寄付を集めるためのひと工夫、寄付者の共感を呼ぶ事業、想いをつなぐ取り組みをご紹介します。

### たかしま有機農法研究会

## 農家、生きもの、生活者の思いをつなぎ、安心を育み、共に恵みをわかちあう

美しい田園や里山の風景が広がる高島市。「たかしま有機農法研究会」は、独自に環境保全型農業に取り組んでいた農家7名によって2006年に設立されました。8haの田んぼで農薬や化学肥料を使わずに、こだわりを持って栽培・収穫された米は840俵の収量となり、「たかしま生きもの田んぼ米」の商標で関東圏にも出荷されています。

しかし、お米のおいしさと安全性は店頭で置いていただけでは伝わりません。販売業者に何度も田んぼに足を運んでもらい、どんな場所で、どんな生産者が、どんな思いで栽培しているかを理解し消費者に伝えてもらい、生産者、販売者、消費者が共に安心できる関係づくりを進めています。

2009年には、食の安全と環境保全に熱い思いを持つ関東・東海地域の米穀店からの提案で、「ライスエイトアクション」が始まりました。お米に関わる多くの思いをつなぎ、食と環境を守り育て続けるための活動です。「たかしま生きもの田んぼ米」の売上の中から1kgにつき8円を、「基金」として積み立て、高島の杉の間伐材を利用した水田魚道やビオトープの設置など 田んぼの「生きもの共生策」に使われています。その結果、水路をフナやナマズ・メダカが泳ぎ、田んぼにはコハクチョウやチュウサギが群がるようになりました。

また、メディアや広報での情報発信、地域の小学生や都市住民との田んぼの生きもの



▲ライスエイトアクションの8(エイト)は、未広りの八、横にすると∞(無限大)。田んぼの生きもの、農家、米穀店、消費者のつながりが広がります。

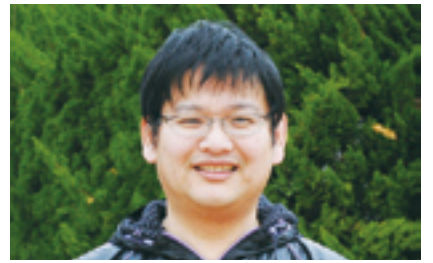
の調査や、田植え・稲刈りの体験交流を通して、消費者との信頼関係も深めています。人にも生きものにも優しく、心がつながる米作りがさらに広がることを心から期待します。

### たかしま有機農法研究会

滋賀県高島市安曇川町四津川614  
TEL: 0740-20-1485 FAX: 0740-34-0098  
E-mail: info@ikimonotanbo.jp  
URL: http://ikimonotanbo.jp

# 深尾 昌峰さん

京都地域創造基金 理事長



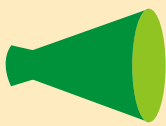
ド」はまさしく、地域の中で課題解決に必要な資金を調達し、循環させる事によって持続可能な地域づくりを実現していこうとするものです。私が理事長をつとめている京都地域創造基金も2年余りの活動で1億5千万円の寄付が集まりました。「身近な公益」の実現のために、寄付をしたい市民はたくさんおられるのだと実感をしました。「寄付税制」が一定実現できた我が国の中で、いま「寄付」は新しい局面を迎えています。寄付者を取り合う懸念が一部ではなされ「競争時代」到来とも言われます。しかし、私は取り合う発想

でなく、いまこそサードセクターが連帯し、多くの市民と共感を共有できる方法を模索し、寄付者を広げていくことこそが肝要だと思うのです。「日本は寄付文化がない」と欧米諸国と比してよくいわれます。本当にそうなのでしょうか？私が今、寄付の最前線で実感するのは、「寄付」という市民社会への参加を切望されておられる方々は沢山おられるということです。しかし、市民活動の情報やチカラが潜在的な寄付者の方々に届いていません。いや、届ける努力が出来ていないと捉えるべきだと思います。でも、一つ一つの団

## 深尾昌峰(ふかおまさたか)さん

1974年生まれ。1998年きょうとNPOセンター設立と同時に事務局長に就任。2001年からは日本初のNPO法人放送局「京都コミュニティ放送」事務局長も兼務。2003年から2007年までは京都市市民活動総合センターの初代センター長をつとめた。2009年からは、公益財団法人京都地域創造基金の理事長。2010年4月からは龍谷大学法学部准教授、2011年4月からは同大学政策学部准教授に就任し現在に至る。現在、総務省地域づくり懇談会委員、京都府民力推進会議委員、日本NPOセンター評議員、公益法人協会評議員など。共著に「対話と議論でくつなぎ・ひきだす」ファシリテート能力育成ハンドブック(公人の友社)『地域政策をになう人材育成』(日本評論社)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)、『よくわかるNPO・ボランティア』(ミネルヴァ書房)など。

体だけではその取り組みに限界があります。だからこそ、市民ファンドのような取組みが大変重要になってくるのです。



## 未来ファンドおうみ応援団

Cheer Group of MIRAI FUND

未来ファンドおうみへご寄付いただいた企業、個人の方々の想いをご紹介します。

## 大阪ガス株式会社

## 地域の全ての人々が心豊かな生活ができるように地域密着型の“小さな灯”運動

1981年から継続して行われている“小さな灯”運動は大阪ガスグループ各社と従業員による社会貢献活動です。具体的な活動内容について京滋リビング営業部滋賀コミュニティ室 吉田聡室長にお話を伺いました。

明治時代、まちの灯りとしてガス燈が普及し、ガスの供給を始めて以来、ガスは地域の生活に密着し、社員はまちの一員として常に地域のお役立ちを探してきました。社会のニーズを考える組織風土と文化が会社のDNAとして長く受け継がれています。社員が企業人だけでなく地域の一市民として自らいきいきと活動することが大切と、「社会貢献推進室」が社員の自主的な活動を支援しています。ボランティアサーク

ルで活動したり、児童施設に手作りのクッキーや雑巾を贈ったりなど、楽しみながら取り組める活動を長く継続してきました。

“小さな灯”運動の始まりとともに従業員やOBからの寄付で“小さな灯基金”を創設し、災害義援金や社会福祉団体への物品の寄贈や財政支援に役立てています。年末には恒例になったチャリティーカレンダーを社員が購入した売上金や、ブックリサイクルのバザーの収益金などが寄付されます。「滋賀地区」でも、2009年に市民活動への応援を目的に「おうみNPO活動基金」に寄付しました。

2011年度から3年間、“小さな灯”運動30周年記念事業として、難病や障害を持つ子どもを支援する団体へ基金の中から助成



▲気仙沼で、畑に残されたガレキの撤去作業をしました。

しています。

地域に役立つ活動が広がり、その精神が本業に活かされて、これからも社会に貢献できればと思っています。

## 大阪ガス株式会社 滋賀コミュニティ室

滋賀県草津市西大路町5-34

TEL : 077-566-0950

URL : <http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/so/index.html>



### ぼてじゃこワンパク塾の活動!!

未来ファンドおうみ  
「淡海のつなぐ、  
ひらく、みらい賞」  
受賞

ぼてじゃこトラスト

絶滅危惧種のイチモンジタナゴの野生復帰に向けた取組みで、未来ファンドおうみ「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」を受賞しましたが、今年も「ぼてじゃこピオトープ」で順調に繁殖しています。



親子で雑魚捕り、自然体験などを親しんでもらう中で、自然、生き物を楽しみ、豊かな感性を持った子供たちが育てて欲しいと開校した「ぼてじゃこワンパク塾」では、まとめ役本田喜裕氏のもと西垣健太くん、吉田拓真くん、久保一真くんを中心にタライでのミニ実験に挑戦し、約200匹の稚魚が誕生、大いに盛り上がっています。

◆ぼてじゃこトラスト

◆連絡先:

「ぼてじゃこワンパク塾」  
本田喜裕 E-mail: hk15008862@mx.scn.tv  
「ぼてじゃこトラスト」  
武田繁 TEL: 090-3841-4807  
E-mail: uotakeda@fine.ocn.ne.jp

### 私たちの目指すもの。1×2×3=6次産業×オール県民参加型の「歓交・感幸ツーリズム」

エコツーリズム協会しが

私たちは、地域の暮らしと食を訪ねるエコツアーなどを企画・実施して地域とツーリストをつないできました。今年も未来ファンドおうみ「びわこ市民活動応援基金」の助成で「地域を元気に！エコツーリズム推進・プラットホーム」事業として、10月に「キックオフ・シンポジウム」を、翌年2月までに「現地視察ツアー&セミナー」(3地域)、「地域探訪エコツアー」(3コース)を、3月には「記念フォーラム」を開催し、魅力ある農山漁村のまちづくりにつなげ、広める活動に取り組んでゆきます。



◆エコツーリズム協会しが事務局

◆〒520-2134 大津市瀬田5-20-3  
理事・事務局長 吉見 精二  
TEL: 077-532-7286 FAX: 077-545-0945  
E-mail: info@ii-trip.com  
URL: http://ecoshiga.shiga-saku.net/

# Information

## インフォメーション

### 未来ファンドおうみフォーラム

～子どもたちに伝えたい、未来、勇気、ささえあう心～

市民の想いを込めた寄付で市民活動を支える仕組み「未来ファンドおうみ」。民が民を支える社会について考えるフォーラムを開催します。



小惑星探査機はやぶさプロジェクトを成功に導き、またNPO法人の会長として子どもたちに宇宙やいのちの大切さについて伝える的川泰宣さんから、これからの日本についてお話いただきます。地域の課題解決に向けて活動する市民活動団体との出会いもあります。

◇日時: 2月11日(祝・月) 13:30～16:00  
◇場所: 県民交流センター(ピアザ淡海)大会議室  
◇基調講演: 「はやぶさを産んだ文化とこれからの日本」  
的川泰宣氏(宇宙航空研究開発機構 名誉教授・技術参与  
/ 認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会 会長)  
詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

### 未来ファンドおうみ助成事業2013

募集が始まります!

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなぐ、未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まります。多くの市民からお寄せいただいた寄付をみなさんが取り組む市民活動へつなげてください。

◇募集期間: 2012年12月1日(土)～2013年1月20日(日)  
◇助成期間: 2013年4月～2014年3月  
◇募集内容  
助成事業: ①おうみNPO活動基金助成  
②びわこ市民活動応援基金助成  
③びわ湖の日基金助成  
④積水化成品基金助成  
表彰事業: 「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」募集  
寄付支援事業: おうみチャレンジ基金助成  
詳細については、当センターホームページをご覧ください。

未来ファンドおうみへの寄付・助成事業についてのご相談は淡海ネットワークセンターへ



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

### 公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com ■E-mail: office@ohmi-net.com ■開館時間/ 9:00～17:00 ■休館日/ 月曜日・祝日